

### イントロダクション

(鳩山内閣発足1カ月)

国民の評価が揺れ始めているという状況にあるのではないか。その背景には G20 での財政出動による緊急対策が合意されたにも拘わらず、その成果がまだ見届けられない中で、「コンクリートから人へ」という施策を急いでやる必要はあるのかという思いがある。まずは景気回復に全力をあげてもらいたい。

首相所信表明についての感想を3点申し上げたい。1つ目は「戦後行政の大掃除」と題して脱官僚への期待感を持たせる一方で、日本郵政の社長人事に対する失望感が大きい。2つ目は、景気回復への具体的なシナリオが語られていない。3つ目は財政健全化への明確な処方箋が示されていない。いずれ具体化されていくとは思いますが、将来への財源確保と国民負担への言及がなかった点では、失望感を持たざるを得ない。

(ミシュランガイドブック)

先日「ミシュランガイド京都・大阪」が、大きな注目をもって発刊された。昔から受け継がれてきた京料理など、京都の食文化が高く評価されたということは喜ばしいことだ。

京都には、昔からの「なじみの店、なじみの客」というものがあり、店は客の好みをよく知って、客が望むものを料理という形で提供してきた。こうした京都独特の背景もあり、今回の選定には、店にも食通にも、色々な思いがあるだろうが、京都の食文化として、多くの方に理解いただければよい。

(京都 知恵と力の博覧会)

本所が実施した庭園散策や部会、女性会、青年部のイベントは大変たくさんの方々にお越しいただいている。「知恵博」は、12月20日まで開催することとなり、本所はその協賛事業として、11月6日には「知恵産業経営大会2009」を開催することとしている。また、「伝統的 工芸品月間 国民会議 全国大会」のような全国規模のものや、会員企業が実施するものなど、会期末まで多数のイベントが実施されるので、注目してほしい。

### 京都商工会議所の動き

**会頭ミッション(中国 上海・成都・西安)の報告について**

**記者配布資料**

10月15日から21日まで、中国の上海・成都・西安に視察団を派遣した。今回のミッションは、過去最大規模の41名が参加し、来年に国際博覧会を控えた上海と旺盛な消費意欲に活気づく内陸都市の成都、国家級のハイテク開発区を擁する西安を訪問した。

上海万博では200日後に迫った会場の建設状況を視察するとともに、事務局の胡副局長と面談した。来年10月中旬に、京都府、京都市と連携しながら日本館において「京都ウィーク」を開催することとを表明するとともに、会員企業の若手経営者などを募って、上海万博視察団を派遣することを申し上げた。

来年の春には、陝西省人民政府並びに西安市人民政府からの視察団が京都を訪問することとなった。京都企業や学研都市の研究機関などとビジネスマッチングや現地進出のきっかけになればと期待している。

今回のミッションは、まさに中国の今の勢いを実感できるものであった。特に内陸部の成都市と西安市では、中国政府の中西部発展に向けた投資拡大方針による内需経済の盛り上がりを感じ、これまでの輸出向け生産基地としての沿岸都市への進出から、旺盛な内需に対応する地産消費型の現地進出の必要性を学んだ。

### **政府および京都市・府への政策要望について**

先程行われた常議員会で、「政府への政策要望」、「京都市・京都府の平成 22 年度施策と予算に関する要望」の 3 つの要望が承認された。

「政府への政策要望」については、歴史的な政権交代となった総選挙から 1 カ月あまりが経過し、京商として政府に対し、今の段階でお願いしておきたいことを盛り込んだ。「将来の日本を見据えた長期的な国家ビジョンの策定」、「持続的な経済成長戦略の策定」、「現在の不況打開のための早期景気回復への対策」という 3 つの項目で構成されており、政府の主要閣僚に提出することになっている。

京都市・府への要望については、来年度予算策定期間に合わせてとりまとめた。「府市協調の推進」という項目を第 1 項目に掲げ、府と市がそれぞれ長期計画を策定することとなる時期に、20 年、30 年後の京都のあるべき姿を、オール京都で共有する必要性を訴えている。それ以外の項目については、本所が取り組んでいる「ニュー京商ビジョン」に基づき構成されており、9 月に行った「京商政策フォーラム」の議論を踏まえた内容も反映させている。今日・明日中に提出することになっている。

「政府への政策要望」「平成 22 年度施策並びに予算に関する要望【京都市】【京都府】」は、以下の URL からダウンロードできます

[http://www.kyo.or.jp/kyoto/public/teigen\\_index.html](http://www.kyo.or.jp/kyoto/public/teigen_index.html)

### **京都能率協会の本所への統合について**

#### **記者配布資料**

京都の中小企業の人材育成を実施している「京都能率協会」を本所に統合し、その事業を会員部・人材開発センターが引き継ぐこととなった。

設立 60 周年を迎える能率協会は、昭和 24 年に「企業の能率向上のための研究機関」として、本所が母体となり設立されたもので、現在は中小企業の人材育成を目的とした、セミナー・講演会を主要事業として活動し、本所からは事務局スタッフの出向や財政面でのサポートを行ってきた。

一方、本所は「ニュー京商ビジョン」において、人材育成の視点を重視し、会員企業の人材育成支援機関としての役割強化を明確にしている。今回の統合により、中小企業に対する支援メニューが豊富になり、事業の相乗効果も期待できる。今後はこれまで以上に会員ニーズをきめ細やかに汲み取りながら、人材育成の充実・強化に取り組んでいきたい。

京都能率協会の 60 周年、および本所への引き継ぎを行う記念式典を 10 月 30 日に実施する。

## 京都の景況について

本所の BSI 調査（7～9 月期）によると、京都企業の自社業況は、特に大企業製造業を中心に各指標のマイナス幅が縮小傾向で推移している。全体としては下降傾向であるが、年末需要への期待なども含めて、下げ止まり感が強まっている。一方で、中小企業を中心に、生産や売上高の減少、資金繰りの悪化など厳しい結果も出ており、先行きについても慎重な見方が多く、中小企業の改善への足取りは重い。

特に、新政権の発足後の 09 年度補正予算の見直しが景気底割れの引き金となり、これから年末にかけての景気の二番底、さらにその二番底が長期化することを危惧している。こうした事態になれば、地域と新政権との信頼関係が損なわれ、新政権へのマイナス影響にもなりかねない。

## 記者からの質問事項

### 行政刷新会議の役割への評価や期待はあるか？

これから来年度予算編成に取り組みられていくので、評価する段階ではない。まずは、補正予算の必要性とあり方をしっかりと議論していただき、来年度予算を早く策定して実行に移してもらいたい。

### 日本郵政の人事や景気回復のシナリオの欠如など、鳩山首相の演説に失望感をもたれたと 言うことだが、もう少し詳しくお話を聞きたい。

「戦後の行政の大掃除」という大きな理念が示されたが、所信表明ではさまざまな点で具体的な言及が不足していた。

日本郵政の人事は、脱官僚の観点からすれば、理解しにくい人事だった。脱官僚が新政権・民主党のマニフェストにおける中心的な位置づけであるのに、それに背いたような形になっており、失望感が大きい。

景気回復のシナリオについては、来年度の予算編成までには、今年度の補正予算が具体化されると思うので、それを待って評価すべきだと思うが、先行き不安を感じる。

### 関西 3 空港について色々議論があるが、立石会頭のご意見は？

基本的には関空が重点的な位置付けだと思う。いずれ伊丹と神戸の調整局面が出てくる可能性を秘めている。京都としては海外からの誘客を考えると、関空のさらなる整備・強化を願っている。国内線は伊丹の利便性が高いので、再整備や新たな位置付けが求められる。

### 上海万博の「京都ウィーク」のイメージはどんなものか？

京都府、京都市、本所を中心に企画を行っている。具体的な内容は決まっていないが、伝統産業や先端産業の紹介、京都への誘客のための PR を実施するというのが、基本的な考え方だ。

### 神戸市長選では、民主単独推薦の候補が勝利したが、来春の京都府知事選への考え方をお聞きたい。

山田知事の 2 期目の総括もできておらず、3 期目の立候補についても伺っていないので、経済界として具体的な要請などを行う時期ではない。

基本的には、府民自身による府政を作っていくという考えのもとで、一票を投じる姿がいいのではないか。

**知事選は政党色が出てこない方がいいということか？**

京都は昔から 2 極の対立軸があるので、それを踏まえて政党がどういう協力体制を作っていくか、そこを慎重に捉えていく必要がある。政党基盤が特定の政党に偏ることは避け、京都では民主・自民・公明の相乗りも必要ではないかと思っている。

以 上

2009年京都商工会議所会頭ミッション「上海・成都・西安視察団」派遣報告

目 的

世界的な経済危機の中であって、8%の経済成長率の目標を設定した中国では、安定した経済システムと豊かな実体経済を背景として、日米欧諸国に先立っていち早く経済回復を遂げるのではないかと期待が寄せられている。

こうした中、アジアの成長ダイナミズムを取り込み、京都・関西と中国の更なる友好発展を継承させるとともに、アジアと京都との経済、人材、技術・研究交流拡大を図るためミッションを派遣した。

主 管

国際交流特別委員会

日 程

2009年10月15日(木)～10月21日(水) <6泊7日>

訪問都市

中華人民共和国 上海市・成都市・西安市

団構成

【団 長】立石 義雄 会頭

【副 団 長】柏原 康夫 副会頭

【幹 事 長】福永 晃三 常議員・国際交流特別委員会委員長

【副幹事長】齋藤 茂 常議員・国際交流特別委員会副委員長

【特別団員】麻生 純 京都府副知事

【団 員】本所役員・議員、若手経営者など36名(事務局・添乗員除く) 以上41名

概 要

ジェットロ上海センターとの懇談

日 時：10月15日(木) 17:30～18:30

場 所：梅龍鎮酒家

出席者：日本貿易振興機構 上海代表処 大西康雄

内 容：中国経済と長江デルタ地域の近況についてブリーフィング。  
中国経済の基本認識は 高度成長で労働力不足、投資効率低下の景気循環要因、投資・輸出主導型成長路線の帰結である構造的問題、国際金融危機による経済要因などが重なり、大きな調整圧力がある。上海の新発展戦略は国際金融、国際航運の2つにある。中国経済における万博の経済効果は0.数%にしか過ぎない。



在上海日本国総領事との懇談

日 時：10月15日(木) 18:30～20:30

場 所：梅龍鎮酒家

出席者：在上海日本国総領事 横井 裕

内 容：アジア経済危機の結果、中国におけるもう一つの拠点として上海が注目されており、日本人にとっては最も投資に適した土地である。上海万博は入場者数が成否の鍵であるが、国威発揚の機会として成功するであろう。反面、7千万人が集中することから新型インフルエンザ感染のリスクを抱えている。上海は今後、虹橋空港ターミナル増設、新幹線建設、リニア・地下鉄延伸などにより江蘇省、浙江省など長江デルタ地域につながる新しい経済発展が期待できる。



### 上海世界博覧会との懇談

日 時：10月16日(金) 8:50~9:40

場 所：上海世博会事務協調局

出席者：副局長 胡 勁軍 ほか

内 容：上海万博の建設現場を視察後、懇談。上海万博を中国と東アジアとの調和を図るためのイベントとして位置付けており、「心の和・技の和」をテーマとする日本館は、上海万博のメインテーマに合致しており、期待している。

立石団長からは来年10月には、京都府、京都市と連携し「京都ウ



イーク」として日本館においてステージイベントを実施し、京都の伝統産業から先端産業、観光、文化などをPRする予定であり、これに併せて視察団の派遣を検討していることを表明した。

### 上海環球金融中心有限公司との懇談

日 時：10月16日(金) 12:00~15:45

場 所：パークハイアット上海

出席者：森ビル(株) 専務取締役 森 浩生  
森大厦(上海)有限公司 総経理 吉村明郎

内 容：東京及び上海において森ビルが手がけた都市開発プロジェクトについて説明。その後、一般非公開のプレゼンテーションギャラリーでの上海市街地のジオラマ、世界一高い展望台(地上100階・474m)などを見学した。



### NCネットワークチャイナとの懇談

日 時：10月16日(金) 16:00~17:00

場 所：パークハイアット上海

出席者：総経理 井上直樹

内 容：日本と中国の製造業者向けの市場情報、ビジネスマッチングを支援する同社の取り組みについて説明。また、昨年11月に実施の中国進出日系中小企業50社を対象にした経営実態調査結果から中国ビジネスの課題などの解説や京都銀行も参加している「ものづくり商談会」の事例紹介もあった。



### 成都伊藤洋華堂有限公司との懇談

日 時：10月19日(月) 11:00~14:00

場 所：紅杏酒家・伊藤洋華堂錦華店

出席者：総経理 三枝富博

内 容：第1店舗を開業してから12年が経過し、現在、3店舗を開設。年商400億円、1万人の雇用で、地元経済に貢献している。顧客層は年収2~3万円をターゲットとしている。大都市であるから成功したのではなく、その町の市民にどれだけ受け入れられるかが成否の鍵であり、5~10年のスパンで事業を進めても成功しない。中国では感情 理性 法律の順番で物事が進むことを理解する必要がある。従業員にもヨーカ堂で働く誇りを持たせることでモチベーションを高めることが重要。懇談の後、大勢の買い物客で賑わう錦華店を視察した。



### 陝西省人民政府表敬訪問

日 時：10月19日(月) 19:00～19:50

場 所：ハイアットリージェンシー西安

出席者：副省長 景 俊海

内 容：友好提携を締結している陝西省と京都府の間では、これまで文化交流が盛んであったが、今回の来訪が経済交流のスタートとなることを期待したいと景副省長が発言。これに対し、麻生特別団員(京都府副知事)からは、昨年の友好提携25周年を機に、今回、環境経済技術合同会議が実現した。京都の経済界の主だった企業が公式に訪問するのは初めてであり、経済、環境面において、大きな発展のきっかけとなることを期待すると挨拶した。立石団長からは、京都はCOP3における京都議定書採択の地であり、グローバルな企業から規模は小さくても、優れた環境技術に取り組む先進的な企業に至るまで多くの企業が集積しており、中国における環境ビジネスの発展につながるよう、陝西省の企業とのビジネスマッチングが図られることを期待していると発言した。



### 西安市ハイテク産業開発区視察

日 時：10月20日(火) 9:20～10:20

場 所：西安高新技术産業開発区

案 内：主任 楊 仁華

内 容：1991年に中国国務院の批准により、最も早く設立されたハイテク区の一つ。IT、バイオメディシン、太陽光発電、宇宙・航空機などの産業集積がある。京都からの進出企業は長嶋精工(宇治市)とマットエンジニアリング(下京区)の2社。



### 西安市人民政府表敬訪問

日 時：10月20日(火) 10:40～11:20

場 所：西安高新シャングリラホテル

出席者：市長 陳 宝根

内 容：西安には48大学、62万人の学生を擁し、ハイテク産業の発展のスピードが高く、外資を惹き付ける要因である人的資源が抱負にある。経済成長は2500億円で3ケタ成長を実現しており、今後、西安市街地については現在の300km<sup>2</sup>から10年後には800km<sup>2</sup>に拡大する予定である。友好都市である京都からの経済交流促進を期待していると陳市長が発言。これに対して、立石団長からは、ハイテク産業開発区を視察した感想として、今後の発展の可能性について期待するとともに、京都には世界を代表する関西文化学術研究都市があり、環境・情報技術などが集積しており、西安市との交流促進が図られることを期待していると発言した。



### 西安 - 京都経済合作説明会

日 時：10月20日(火) 11:25～12:10

場 所：西安高新シャングリラホテル

出席者：日中約100名

内 容：西安の投資環境などについて説明。冒頭、立石会頭からは、地産地消型の生産基地として、中国が西部内陸部への投資を強化し、内需経済への転換を図ろうとしていることは、発想の転換である。京都企業が環境ビジネスなどの面において、今後の技術交流、企業間交流の必要性を述べた。



陝西省、西安市は来春に京都に訪問団を派遣することを表明した。

この他、世界遺産の九寨溝や兵馬俑、成都パンダ繁殖研究基地を集客観光などの視点から視察した。

本件問合せ先 本所 企画室 企画・広報担当 TEL：075-212-6432

## 京都商工会議所と京都能率協会の統合について

## 1. 統合の趣旨・目的

昭和24年、京都府の経済復興、府内企業の能率向上のための研究機関として設立された京都能率協会も、平成21年10月29日をもって創立60周年を迎える。その間、京都商工会議所はその設立母体として、京都能率協会への人材面のサポート、さらには活動に伴う財政面での支援を行ってきた。

しかしながら、時代の経過とともに「能率向上のための研究機関」という設立当初の目的から府下の中小企業を中心とした人材育成のための機関へとその役割も大きく変わっている。

その一方、京都商工会議所は、<ニュー京商ビジョン>において、中小企業の人材育成機関としての役割強化を明確にしており、京都商工会議所との統合は、中小企業に対する支援メニューが豊富になるとともに、会議所事業との相乗効果が期待できるため、一層の人材育成面の拡充・強化が可能となるという理由から、平成21年11月より統合することとなった。

## 2. 統合に至る経緯

京都能率協会が平成21年10月に60周年を迎えるのを機に、京都能率協会の理事で構成する『組織のあり方委員会』を設立。3回の委員会を経て、京都能率協会を京都商工会議所に統合し、一層、企業の人材育成に取り組むことが京都経済のさらなる活性化に資するとの結論を得た。

## 3. 統合後の事業主体

平成21年11月より、京都商工会議所人材開発センターが事業並びに人材を引き継ぐ。これにより京都商工会議所人材開発センターの事業は、

- (1) 研修・セミナー事業（京都能率協会からの引継ぎ）
- (2) 検定事業
- (3) 雇用創出事業

となり、さらに新たにコンサルティング事業や会員向け定例講演会を新規事業として加えることで、人材育成事業の拡充強化を図る。

本件お問合せ先 京都能率協会 TEL：075-212-6446

## 京都能率協会 60 周年並びに移行記念式典について

京都能率協会 60 周年並びに京都能率協会の京都商工会議所への移行を記念して、式典及び懇親会を下記の通り実施いたします。

### 記

1. 日 時 平成 21 年 10 月 30 日 ( 金 ) 11 : 00 ~ 13 : 00
2. 場 所 京都ブライトンホテル
3. 内 容 (1)式 典 ( 11 : 00 ~ 11 : 45 地階 英の間 )
  - ・ 挨拶
  - ・ 映像上映 ( 「京都能率協会の足跡」 )
  - ・ 感謝状贈呈
  - ・ 事業及び財産の引継
  - ・ 来賓祝辞 他(2)懇親会 ( 11 : 45 ~ 13 : 00 1階 慶祥雲の間 )
4. ご案内先 京都府知事  
京都市長  
京都商工会議所 議員  
京都能率協会役員、会員及びセミナー講師

以上

本件お問合せ先 京都能率協会 TEL : 075-212-6446